

かながわ考古学財団入門講座のご案内

～ようこそ考古学～

第3回 テーマ -ようこそ弥生のムラへ-

日 時: 9月 7日(金)19:00～20:30
場 所: かながわ県民センター 301 会議室 (横浜駅西口徒歩 5 分)
講 師: 新開 基史(かながわ考古学財団)
費用・定員: (費用)無料 (定員) 90名



申し込み方法: 往復はがき又はメールに行事名、氏名、住所、電話番号を明記して、かながわ考古学財団野庭出土品整理室へ

考古学室内作業見学・体験会

～考古学室内作業見学・体験会～ (県受託発掘作業等現場見学会)

日 時: 9月24日(祝) 10:00～, 13:00～
場 所: かながわ考古学財団野庭出土品整理室(横浜港南区野庭町)京急「上大岡」駅・市営地下鉄「上大岡」「上永谷」駅・JR「港南台」「洋光台」駅よりバス「すずかけ通」下車徒歩3分
内 容: 遺物の復元・実測等の出土品整理作業見学、拓本・写真撮影体験
費用・定員: (費用)無料 (定員)なし
その他: 上履き持参
申し込み方法: はがき(往復はがきではない)に行事名・氏名を明記して、又は電話にて、かながわ考古学財団野庭出土品整理室へ【しめきり】9月21日(金)

夏休み考古学教室2007のご案内

～体験考古学～

(県受託事業)

日 程: 中学生:8月 7日(火)・8月 8日(水)
高校生:8月 9日(木)・8月10日(金)

【1日目】9:00～16:00
[発掘作業体験]

場 所: 伊勢原市No.160 遺跡発掘現場小田急線「伊勢原」駅よりバス「専修大学入口」下車徒歩1分

【2日目】9:30～16:00
[出土品整理作業体験・石器づくりなど]

場 所: 野庭出土品整理室(横浜港南区野庭町)京急「上大岡」駅・市営地下鉄「上大岡」「上永谷」駅・JR「港南台」「洋光台」駅よりバス「すずかけ通」下車徒歩3分

申し込み方法: 往復はがきに行事名、氏名、住所、電話番号、学校名、学年を明記し、かながわ考古学財団野庭出土品整理室へ

定 員: 中学生 10 名, 高校生 10 名

※2日とも参加できる生徒

費 用: 無料

しめきり: 7月31日消印有効

※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。



こたえ キャリパー

これは遺物の厚さを測る実測用具です。先端のとがった部分で遺物をはさみ、反対側の目盛りを読んで遺物の厚さを計ります。土器などの実測図を書く際、この計測値を用いて断面図を作成します。

なお、このキャリパーの湾曲部に似たプロポーションの土器をキャリパー形と呼びます。



[キャリパーの使い方]

お申し込み
お問い合わせ

(財)かながわ考古学財団 野庭出土品整理室
〒234-0056 横浜市港南区野庭町 1660 E-mail: fukyu@kaf.or.jp
TEL: 045-842-9888 (平日 8:30～17:15) FAX: 045-842-9904

考古学財団発掘帖

2007
1号

かながわ考古学財団情報誌 通巻 1号

平成19年6月29日発行 年4回発行



相模原市城山町 はじめ沢下遺跡 (はじめさわした いせき)

津久井湖北岸の河岸段丘上に立地する遺跡です。これまでの調査で、縄文時代後期の住居跡8軒や弧状に石を並べた列石が見つけられました。住居跡は床に石を敷いた敷石住居跡と呼ばれるもので、平面形が柄の付いた鏡に似ることから柄鏡形敷石住居跡と言います。写真の敷石住居跡は地面を掘りくぼめて作られており、全長は約 4 m。上方の円形部分が居住空間で、中央に石で囲った炉があります。下方は入口と推定されています。

目 次

- | | | | |
|--------------|--------------------|--------|---------------|
| ● 発掘現場・出土品整理 | 海老名市: 社家宇治山遺跡 | ● くいず | |
| ● インフォメーション | 茅ヶ崎市: 小出川河川改修関連遺跡群 | ● 行事案内 | かながわ考古学財団入門講座 |
| ● こんなものでたよ | 伊勢原市: 下北原遺跡出土の注口土器 | | 考古学室内作業見学・体験会 |
| ● 考古学ミニコラム | 前期旧石器その後の始まり(1) | | 夏休み考古学教室 2007 |



(財)かながわ考古学財団

電話 045-252-8689

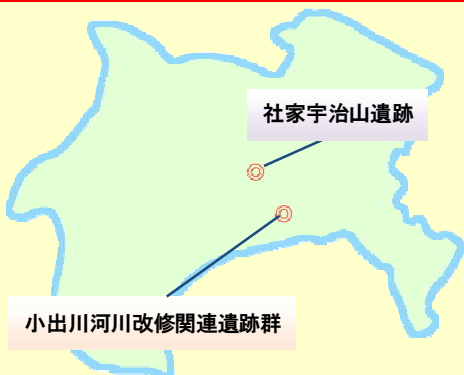
〒232-0033 横浜市中区中村町3-191-1

FAX 045-261-8162

URL <http://www.kaf.or.jp>

発掘現場・出土品整理 インフォメーション

ぼくは川尻中村遺跡(相模原市)のはちまき土偶はっちです。発掘調査や出土品整理中の遺跡の紹介をします



社家宇治山遺跡(しゃけうじやま いせき)

(所在地)	海老名市	(時代)	近世、中世、奈良・平安時代、古墳時代前期～弥生時代後期	(調査期間)	2003 年 3 月～ 2008 年 2 月
-------	------	------	-----------------------------	--------	---------------------------

社家宇治山遺跡は、相模川左岸の自然堤防上、JR相模線社家駅の北西約 0.3 kmに位置します。さがみ縦貫道路建設にともない、中日本高速道路株式会社より委託を受けて発掘調査を行っています。

近世・中世では、戦国時代から江戸時代の堀に囲まれた屋敷跡が発見されました。ここからは、掘立柱建物跡と呼ばれる建物の跡や生活に使った井戸などの遺構が発見されています。

奈良・平安時代では、8世紀～9世紀頃と考えられる竪穴住居跡や溝が発見されました。また、8世紀～10世紀にかけて何度か補修を繰り返して使用された道状遺構も見つっています。



▲古墳時代前期 方形周溝墓 (2006 年)

弥生時代後期～古墳時代前期では、方形周溝墓と呼ばれるお墓が 50 基以上見つっています。これらの遺構からは、壺や高坏、埴と呼ばれる土器が出土しています。遺跡の北側からは、竪穴住居跡がたくさん発見されています。この内の3軒の竪穴住居からは、グリーンタフ製の管玉を作っている工房の跡が見つっています。

小出川河川改修関連遺跡群(こいでがわ かせんかいしゅうかんれん いせきぐん)

—七堂伽藍跡、西方A遺跡、岡田南大河内遺跡、大曲五反田遺跡—

(所在地)	茅ヶ崎市 高座郡寒川町	(時代)	奈良・平安時代、 弥生時代後期、縄文時代前期	(調査期間)	2001～2006 年
-------	----------------	------	---------------------------	--------	-------------

遺跡は、茅ヶ崎市下寺尾・寒川町大曲に所在します。中心となるのは奈良・平安時代で、100 軒以上の竪穴住居跡や東西南北に整然と配置された掘立柱建物跡を発見しました。計画的に配置された建物群は、公的な性格を有する施設の可能性を示すものです。隣接する古代寺院の下寺尾廃寺や古代の役所である高座郡衙に関連する集落と考えてよいでしょう。出土した遺物も、土師器・須恵器に加え、釉薬のかかった焼き物(灰釉陶器や緑釉陶器)、瓦、銅鈴など、通常の集落では見られない遺物が出土しています。



▲奈良・平安時代 竪穴住居跡 (2004 年)

また川跡も発見され、鍬や皿、曲物、人形、刀形などの木製品が出土しています。人形、刀形は、まじないに使用されたもので、貴重な発見となりました。弥生時代の調査でも当時の川の跡を検出しています。川の跡からは弥生時代後期の土器とともに、エブリなどの木製農具が見つかりました。また農具以外では、建物への出入りに使用したと考えられる棒梯子も見つっています。縄文時代の遺物は台地の縁辺部から集中して出土しました。台地の上には縄文時代前期の貝塚である西方貝塚があります。

こ ン な も の で た よ

最近の発掘調査で出土した注目される遺物の紹介コーナーです。



▲注口土器

伊勢原市下北原遺跡出土。口径 2.3 cm、胴部最大径 11cm、高さ 9.4cm。ほぼ完形。当遺跡は大山の麓に位置します。1973 年浄水場建設に伴い調査され、縄文時代の石を敷いた住居跡(敷石住居跡)や石を組んだ配石遺構が出土し、注目された遺跡です。

本資料は 2006 年度の調査で出土しました。注ぎ口が付いており、現代なら急須や土瓶とか言いますが、考古学では注口土器と呼んでいます。主に液体を入れて、注ぐのに使ったと考えられます。文様は棒で引いた線で三角形の文様を描き、線に沿って点列を付けています。注口土器は縄文時代中期の終わり頃、深い鉢形土器の口に注ぎ口が付けられたものが出現しますが、後期になると小形化して、そろばん玉形や球形の注口土器ができあがり、以後縄文時代の終わり頃まで作られています。本例は後期の例に属し、その中でもかなり精巧なものと言えます。

考古学ミニコラム

—第1回—

考古学のホットな話題や資料の見方をとり上げたり、講座等で多く寄せられた質問に答えます。

前期旧石器その後の始まり (1)

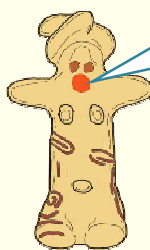
2000 年 11 月 5 日の毎日新聞朝刊にて報じられたスクープは衝撃的なものでした。ご記憶の方も多いと思いますが、東北旧石器文化研究所前副理事長が「遺跡」に「前期旧石器」を埋めていたという事件です。これに対して日本考古学協会は、直ちに特別委員会を組織して、様々な検証調査や分析を行いました。



▲前・中期旧石器問題の検証

具体的には、五つの作業部会が設けられ、①捏造に供された石器の検証、②捏造された遺跡の検証発掘、③自然科学的検討、④前・中期旧石器の型式学的検討、⑤捏造がおこなわれた歴史と社会的背景といった課題が扱われました。そして 2003 年 5 月の第 69 回日本考古学協会総会にて総括報告がなされ、あわせてその詳細は『前・中期旧石器問題の検証』として報告されました。さらに 2004 年 5 月の第 70 回日本考古学協会総会にて最終報告がなされましたが、これら一連の報告は、検証途中のものを除けば、東北旧石器文化研究所前副理事長が関わったほぼすべての「前・中期旧石器時代遺跡」が捏造であるという厳しい内容でした。(次号に続く)

く い ず



こっ、これは何？。
変な形！。



こたえは、次のページ